創造・参加・実践

JR西労組ひろしま

No.367
2019年3月15日

西日本旅客鉄道労働組合
広島地方本部
発行責任者　松原　伸芳
編集責任者　守田健太郎
広島市東区上大須賀町16－1
新幹線西高架下　3F
ＪＲ　(081)2473
ＮＴＴ　(261)6614

第二十八回地本委員会を開催！

責任組合の役割を自覚し、安全を基礎に、持続的発展に向けた展望を切り拓こう！

広島地本は、二月十六日（土）ワークピア広島（広島市南区）において、第二十八回地本委員会を開催しました。来賓として、中央本部より城副執行委員長及び白壁組織部長、新幹線協議会より高橋事務局長が出席されました。委員会では、六名の委員から発言を受け、安全の確立に向けた取組みや二〇一九春闘の具体的な行動について満場一致で承認されました。

委員会は、池上副委員長の開会あいさつで始まり、委員四十一名中四十一名の出席により委員会成立を確認した後、議長に西本委員（山一支部）を選出し、議事を進行しました。

委員会の主な議事は、①主な運動の総括（一）安全確立に向けた取り組み（二）相次ぐ自然災害への対応について（三）二〇一八年総合労働協約改訂・業務課題への取組み（四）働き方改革関連法への対応について（五）組織の拡大と強化の取組みについて②当面する活動方針、（一）私たちを取り巻く情勢、（二）具体的な取組み方針について宮川書記長より報告及び提案がありました。

その後の質疑・応答では、六名の委員から発言を受け真摯な議論が交わされ活動方針などの提起事案について、満場一致の拍手で承認されました。そして最後に、松原委員長の団結ガンバローで、委員会は閉会しました。

（右）委員会宣言を読み上げる眞崎青年女性委員長
（左）進行を行う西本議長

松原委員長挨拶（要旨）

○七月豪雨について

二〇一八年七月に発生した「平成三〇年七月豪雨」では、中国地方の在来線の約五〇％以上が運休になるなど、その被害は甚大なものとなり、芸備線の復旧は今年の秋を予定しており、災害の影響はなお色濃く残っています。各職場においても、復旧作業はもとより、炎天下の中での代行バス案内等に尽力していただくとともに、ボランティア活動や支援カンパにご協力いただいたことに対しても、感謝を申し上げます。

○安全の確立について

昨年八月、下関総合車両所運用検修センター内において、協力会社社員の墜落死亡労災が発生しただけでなく、同九月には、栗東～草津駅間において感電死亡労災も発生しています。今回発生した二件の労働災害はいずれもルールや基本動作が守られなかったことに端を発しているということを考えると、安全を最優先する職場風土をグループ会社、協力会社と一体となって醸成していくことの重要性を再認識しました。今年度は新たに「ＪＲ西日本グループ鉄道安全考動計画二〇二二」が施行された年でもあることから、グループ全体で更なる安全の取組みを推進するべく、安全衛生委員会の充実等に取り組みます。

○一九春闘について

ＪＲ西日本の第３四半期決算では、「平成三〇年七月豪雨」の影響が大きく、二一八億円の特別損失を計上しているものの、営業収益で対前年一七七億円の増収、通期業績予想でも対前年二十七億円増を見込むなど、経営動向は昨年を大幅に上回る状況となっています。

「賃金は最大の労働条件」との基本認識に立ち、黒字である限り、公正な成果配分を求めるという強い決意のもと、純ベア三〇〇〇円を含めた月例賃金総額六〇〇〇円の引き上げ、年間臨給五・七ヶ月、シニア・シニアリーダー社員純ベア三〇〇〇円の引き上げ、契約社員の時給四〇円賃上げ、五十五歳以降の基本給調整率の廃止、その他二十三項目にわたる総合生活改善要求などにこだわっていきたいと考えています。広島病院支部等グループ労組へ成果を波及させるためにも、全力で二〇一九春闘をつくり上げていきます。

○組織の強化・拡大の取り組みについて

先輩役員も若手役員に任せるだけでなく、職場の中で先輩役員として背中を見せて頂き、日々の分会活動を若手役員と一緒になって取り組んでいくことがＪＲ西労組運動の継承へと繋がってくると思っています。先輩、若手が一体となった組織活動をお願いします。

現在、広島地本の組織率は九十四％となっています。当面の目標である九十五％の早期達成に向けて各級機関の組織拡大行動をお願いします。

○政治活動について

今年は統一地方選挙、参議院議員選挙と選挙の年です。我々、ＪＲ西労組の政策を前に進めるには、議員を政権に送り込むことが不可欠です。我々の組織内議員として、広島市東区選挙区から柿本忠則氏が出馬する予定であるほか、下関市選挙区から酒本哲也氏も出馬を予定しています。両名の当選に向け、全組合員が全力で取組んでまいります。